

Genius English Writing

ライティングの授業でスピーキング力UP



百瀬美帆

①はじめに

ライティングの授業は文法の説明、例文の暗記、和文英訳とその添削といった流れになりがちではないでしょうか？ 生徒に英語で何かを発信させるためのインプットが教師からの一方的な説明になってはいないでしょうか？ 生徒自身の英語で表現してみたいという意欲を失わせないための工夫が必要です。ここでは、スピーキング、リスニング、音読を取り入れた授業方法を紹介します。

②スピーキングで動機づけ

授業の導入に決まったスタイルをお持ちですか？ 私は英語 I, II, OC, リーディング, ライティングのどの時間も最初に、生徒同士で簡単な会話をさせることにしています。年度初めの授業で次の方法を指示しておきます。

- ① 4人グループをつくる
- ② 次の順番で他の3人と立って会話する
向かい合っている者同士 → 隣り同士 → 斜め向かい同士

③ 3人との会話が終わったら座る

この導入に割く時間は5分から10分です。毎回行うので、生徒にとっても日常生活から英語授業へとスイッチを切りかえる動機づけになっています。

Genius English Writing の Lesson 1 “A Letter from Brian Johnston” を題材に、具体的な授業の流れを示してみます。

(1) トピックと Today's Question の提示

授業で扱うトピックや、教科書に出てくる表現を使って生徒に質問を投げかけます。このレッスンでは、手紙とEメールについての Today's Questions を提示し、生徒がその質問を使って会話できるように口頭で練習します。

“Do you often write letters to your friends? I haven't written a letter for a long time. Instead, I often send emails to my friends because I can send them whenever I like. Then, today's question is 'How do you give your message to your friends? By writing letters or emailing? Why?' Now, everyone, listen and repeat after me.”

このレッスンで扱う文法事項にとらわれることなく、場面に応じた自然な表現を練習させます。また、必要があれば解答例も1, 2例示しますが、こちらも正確な文章で答えることよりも、内容を重視して、(I like) Emailing (better) because it is faster (than writing letters). のようにキーワードが含まれていれば解答できたものとします。全員が着席したら、数人の生徒を指名しグループの解答をまとめて報告させます。

(2) リスニングとリプロダクティング

次に、テキストを見せずに、モデル文を聞かせます。このモデル文は高校2年生から3年生がいつべんに聞き通すにはちょうどよい分量で、語彙レベルも適切だと思います。

生徒は各自のノート等にメモを取りながら聞くようにし、そのメモを参考にしながら、教師の質問に答えます。このQ&Aで確認された情報をも

とに生徒がモデル文の内容をリプロダクトできるように、質問を工夫します。

私の場合は、答える生徒を指名せず、クラス全体の発言を促します。複数の発言の中から正しい情報をピックアップしてキーワードのみを板書します。

次のステップは、板書されている情報を自分の言葉でつなぎ合わせていく活動です。ここで生徒が「表現したいがうまくできないもどかしさ」を感じたり、「表現できた喜び」を感じることが大切です。発表は、緊張により意欲がそがれないようペアやグループ内で行います。その際に“Dear Junko”と始めることだけ指示すると、生徒がスピーチを始めやすくなります。

実はこの活動は、Exercise C とほぼ同じ内容です。この段階では口頭発表にとどめ、後で書かせてみることもできます。その際には「正しく書く」ことを活動の目標とします。

③音読でインプット

いよいよ教科書の出番です。モデル文の大意はもう理解できていますから、今度は付随する情報も含めて正しい表現でインプットしていきます。テキストを見ながら CD (テープ) について読むシャドウリーディングを行います。(1), (2)の活動で話していた英語から、正確な英語にレベルアップするために、正しい英文を繰り返しインプットし、発信する際には語句や表現が自然に出てくるようにさせたいものです。

続けて Study Points に入ります。あげられている短文はどれも一目できるちょうどよい長さです。リード・アンド・ルックアップを行います。CD (テープ) を聞きながら文を黙読し、ポーズの間に顔を上げてその文を音読します。生徒がテキストから目を上げて発声していることを確認します。この活動の目的も、モデル文の音読と同様に正しい英語のインプットですから、1回ではなく数回繰り返します。

モデル文、Study Points とともに、定着を確認する方法としては暗記や書き取りがありますが、モデル文については、定着させたい表現以外にストーリー固有の情報が多く含まれていますので、モデル文を丸暗記するというのは、実用的ではありません。

Study Points については、書き取らせるのもひとつの方法と思われますが、私の場合は「書く」活動はすべて Exercises で行い、ここではさらにインプット量を増やします。

Lesson 1 では、第 1・第 2・第 3 文型を指導するようになっていきますので、それぞれに用いられる動詞の説明を簡単にした後、別の例文を口頭で伝え、3つの文型に分類していきます。

ここまでの活動は基本的にはオールイングリッシュで行います。

④ライティングで正しくアウトプット

ここまでの活動では、生徒の「表現したい」意欲を先行させ、その意欲に英語が導き出されることを重要視しましたが、最終的には各レッスンの Exercises を利用して正しい英語を書くことを科目の目標とします。スピーキング活動で見逃される冠詞の誤用や時制の誤用も厳しくチェックします。同時に、日本語と英語の表現を一对一で対応させるのではなく、「こういう言い方もできる」という可能性や、複数あげた表現の使い分けも指導しなければなりません。この部分は JTE 1 人ではなかなか指導しきれませんので、ALT の力を借りるようにしています。

⑤おわりに

何かを伝えたいという意欲そのものが減少している人が増えているように思います。英語以前の問題です。おしゃべりしたり文を書いたりする楽しさを思い出させることも私たち教師の役目なのかもしれません。

(ももせ みほ・千葉県立千葉女子高等学校教諭)